

伊
再形庵本
被書
中

中村俊定文庫

文庫 18

1002

2

65

70

75

80

85



岱水花觀進之被書



死に浮世亦酒白く食馬一芭蕉

冊内七卷初表七死在月夕又表七丑夕目より
其表七夕々々

散る左九良同宗旨誓り其角

化野棺出しし草七月 嵐蘭

詩商人中々坂合貝子酒債の角 其角

中村俊定文庫



冬湖日暮しイヌル駕馬に 雞 芭蕉

此卷乃初抄元七句に

詩高人元城貪ふ酒債可南 其角

春湖日暮し駕馬吟 芭蕉

其角句尺予花入探元七卷初表の十一句目
月にし名残裏四句目花

元乃名に々々三三が揚貴妃 彫棠
是より春片々々三句七渡り

蓬萊宮名残七裏に二句目

高麗乃縣に富仙りし 桐葉

元深乃唐駒に元七白城交り 芭蕉

此卷挙句迄七裏にけり歌仙挙句白以七
元兩句元 栲抄古句深川三吟七名残七裏に

元一し未來城極し元七 陰 其角

三人笑ふ事七はくく 嵐雪

歳暮より七名残裏冬七元あり

風たのちけし 元乃ニツ三川 荷兮

蓬萊宮何やのあし何やら席きき卷

畏馬右也乃堂乃元ひさし 叮端

羽織に酒飲のゆる様也 相葉

同集に初也元秋と多うりる

白子北太夫あゝ宵月也 海 倚腕

浪奇ふ鯨也骨に元しし 芭蕉

此卷名残裏北元北面影也挙々

宮中乃油提片也 元也 奥 芭蕉

片し其合名若くは西行 倚腕

千鳥也懸集名残北裏に夏より元に移る

糸切さすける人時鳥あけ 知足

元盛し文成集ふ窓用し 費言

乙卯傳十体

宮に召はし 洞をりし
手札に細記枕端さし入し

雪丸集にの字世
とありしとあり

尼にあられり月夜きぬ
月影に具足とやら思ふ透し
草鞋切直ん墨玉衣の
物やしくり百もあふ及郎 飾
五しうき福し一片所て板友
思ひ草志やふ乃礼生まきり
こもれ北ちう〜寒記山うけ
竹條竹七葎す〜んを己くえし

鶏あ〜ん埋方北毛中し
皮衣茶切撰局席に抄巻し
りむりに寒記浦七臨や記
さほ〜北勇北心もや〜書し
後根う湯〜まお乃生う記
蝶乃葉北心も〜や執〜ん
ま〜知明ぬん風七ま〜り
一羽飛下鴉切筆北道にこ

柴芥をるる園乃さりし
牛也子もあゝ小庵北角落し

二句引集也

以中より書り又る草戸也内

二丁程西に碁乃あやあり

榎也風也夏うゝ城 吹く

寒き炉に位寺の櫛柿むきし

小僧二人の畏り ちれ

新鮮也給書に奈の良也酒或汲

志の意の包紙或持しふ笑ひより

宮司の書に惚れし あり

美人也拜む陽火と乃真 二山

夫稗也聲声也蝶と身或侘し 芭蕉

打らひく前函也白乃あひし 死

君にもとれし酒買に 女 桐葉

木角くは星又ゆる 影 芭蕉

蓬萊宮

蓬萊宮

蓬萊宮に合
北師北星ニツツ出

蓬萊宮

宮中北油提引 元北奥 芭蕉

一聯 咲るまじし北芍 茶 東藤

暮北工夫二廿 甲令局目以し 芭蕉

浮城切川し 笈城暮りれ

琵琶扇ふ 床室に入ふ 篠竹

侘面白く 椽北粥 煮る

きく ち北里北 砵城打に引

右各羽北附夕也

行脚之夕帳

芭蕉野々 其月に 茶鞋買は 李下

月中也 免葉城酒北 食 羽

宿まじ 廿人西行あ 秋北 雷椽

芭蕉し 谷ふ 風乃 破笠 羽

元北 咲く ちあ ち 茶北 羽 可南 勝延

秋に ちあ ち 蝶北 ちす 城北 羽

師北 椽 ち 拾り ち 木葉 ちあ 塔山

江戸

す、死に安んず、終無四十、
乙羽

窮せ宿旅、病に致張、故看、
如行、乙羽

古人加根、乃夜、
枯、乙羽

交毛、さひよ梅、
真、
乙羽、
雅良、乙羽

茶湯に残る、
乙羽、
乙羽

のささく、
乙羽、
秋風、乙羽

笈に郵、
乙羽、
乙羽

極、
乙羽、
乙羽

あす、
乙羽、
秋風、乙羽

梅、
乙羽、
湖春、乙羽

東乃窓、
乙羽、
乙羽

巢、
乙羽、
乙羽

校、
乙羽、
桐葉、乙羽

茶、
乙羽、
乙羽

復、
乙羽、
若菜、乙羽

笠、
乙羽、
乙羽

蓬萊宮

海苔し鴨乃声をせにわし

芭蕉

之しに鯨や焼ふ

觴

桐葉

二百年ふ山に芥一そりし

東藤

のしに種まき秋の末にけり

工山

鶺鴒

入月に鶺鴒也鳥也渡ふそり

葉

篋上も國に流るるは

蕉

降雨に走る母也あう

鳥

山

一輪咲き芍薬也

煮

藤

暮乃工夫二女角も眼地内し

蕉

蕉

園上陰向机あき

水

葉

童子唄も河原もあつた巻なり

藤

藤

多居まけり松也入口

山

山

長笠交し衣也破れ綴り居る

葉

葉

秋也鳥也人喰にけり

蕉

蕉

一此日北野令乃濱の月澄し
 亭乃亭に竜城書付く
 元是之石北扉城也〜以〜記
 負人北〜と相む陽冬
 夫蘗北智、声あき蝶〜力城候し
 生海嵐千に毛油〃梳り
 本向より西北清堂北壁 白く
 藪に葛を北十斗 尺中
 蕉 葉 藤 蕉 山 葉 藤 山

わり〜也物燭片之ふ祖又以り
 京に名高記瘤也吮^三咀^十
 富士乃根成笠着し鳥に〜あ〜
 窟に以鶴也以と川形も覧
 待之にに鏡成去也以待化粧
 衣之月〜小性萩也戸成押
 月細〜時計北管八ツ四りし
 権城い〜消〜と北露
 蕉 山 藤 葉 山 蕉 葉 藤 山

破竹乃具足故西一送リ
 高麗乃縣上畠片之
 所深北唐駒上元也系城紋里
 ちいさ兒宮北永日乃 伽
 才也而也新葳意粽荷以才也
 其叶ち〜ん藤乃投也
 藤 葉 山 蕉 葉 藤

貞享元臘月十九日

何し〜る〜何やら席〜 莖 叶 芭蕉
 編笠友し〜り〜いふ 叶 端
 田螺刻ふ賤乃童〜北暖に 桐葉
 公家上宿らし竹北中道 蕉
 月見〜空北夜相北下駄すけし 端
 酒飲甥北いらにさひ〜 葉
 双六北〜〜切多上書片之〜 蕉
 琴〜凡知〜む油北〜〜香 端

長 髪落凡侍從此娘此如流し

野、宮、崇、峻、王、寺、也、 鉦

空、櫓、に、色、を、も、り、節、を、成、す、こ、の、こ、

枕、を、若、く、も、ち、起、る、名、月、也、 圓

面、白、也、故、也、也、秋、乃、夜、 弥、也

也、毛、一、尺、風、成、去、也、亦、於、血

川、漱、水、如、告、也、角、上、皓、令、し

舎、利、也、も、滝、上、釣、日、移、り

畏、る、石、也、清、堂、乃、元、以、さ、し

羽、織、上、酒、成、り、ゆ、も、左、九、良、也

寄、詠、之、し、如、上、蚕、送、り、り、り

枕、屏、風、也、終、上、淡、之、む

吹、あ、ま、し、一、笛、乃、色、音、也、声、盛、り

三、段、也、船、上、深、川、也、夜、も

庵、位、也、櫛、杜、律、成、味、以、し

元、速、也、も、竹、櫛、也、荻、麦

葉

蕉

端

葉

蕉

端

葉

蕉

端

葉

蕉

端

葉

蕉

端

葉

いふに鳴く鴨の吹たる風あり
 水汲む小僧袖にや、かに
 月明し寺板山切障りし
 空の夜盗ち跡う川起り
 村雨に濯け捨る鳥に三月
 以て卯の兔に爪取喰ふ比
 笠又ゆふ人の薄にまろく作し
 胃鰓乃老に悲し一に
 蕉葉 蕉葉 蕉葉 蕉葉 蕉葉 蕉葉

風ふれ大なる夜にセリ起る
 内乃切叩く生雞や奏
 常盤山中に花は久々飛咲し
 向すに残る連歌師や和
 蕉葉 蕉葉 蕉葉

貞享元三月廿七日

行くやし榎に花袖に散る
 以て茶碗掃む藪に下り
 芭蕉 叩端

丹影中雉子乃雛子我追之十有倚腕

清水切すう小鳥柄杓七月東藤

切毛一落野一上鄭廣乃若其上二山

宥七土産上松子切堀乃蕉

鼻孤上宮古七連歌書片片一し端

首乃大津上三井七鐘記く山

空切俛以漢七姨乃油切尺二桐葉

寤上乃鴨七四五扇七空一腕

松風七御音上酒切飲尽し藤

佛一切刻人西山七僧端

うのまま七切髪切乃女羞上乃若蕉

高切尺破乃槿乃月葉

秋の味よき切乃女喰上し一山

白子七太夫乃宵乃七海藤

浪寄乃難七曾上植乃端

のけちん於胡七乃一道蕉

笠持し空殿に立ちし瘦おとしこ

五重北塔北邊り夕ふれ

鶴鴿也尾切蜘蛛也いにうけし

風に身おくりし北折死

筆取りし杓北廣葉引燧也

四舎登り乃お見初をふ

折被く前岳北香北ありし

ふりし君也し酒買に也

藤 山 葉 端 腕 蕉 葉

白銀北陣に白雲遊せし

方片帰京乃山鳥也

轡輶北東乃寺北月濤く

猿子北雲北何也招く也

蝉鳴し山松栞也枝乃空

草亦曲に鳥尾也 琴

表もふ系お焼し帰る野に

入日北跡乃日生ニッ三川

山 藤 端 蕉 山 藤 葉 蕉

宮さうり北油提り毛 元北奥 芭蕉
清く北衣看く北西行 腹

貞享二年三月廿八日

知やうりうけ

京迄りまこと半空や 空北 芭蕉
千鳥さうり北海北月 費言

小蛤さうり北油以ちし 知足
酒氣是れ北風 如風
弾捨し琵琶北御成 安信
僕かおとし牛いり 自笑
二三川及哺北鴨鳴 童辰
明日乃命北飯煙 信
渡舟夜明く北山 笑
鐘いり北西の以り 蕉

寺梁別れ北後毛以中し

淡城活一し都北腰おれ

髪け片馬熊北油乃名も

才上陰出し秋の寐之馬し

釣簾共戸にたこ

柳枝角力北ちうし争し

小袖しし元北風城も

赤の馬、猫乃子成捨し

足

言

蕉

風

信

足

辰

信

憂中し城取し北年毛

父北軍城起帥北

松陰に少し艸ある

更城根小鳩一

静ある亀の敦日

三度得し馬

山中の車に削る

火うち

足

蕉

笑

言

信

笑

蕉

足

滝はせに行ふ法北新 嵐 風
 楓の島はるそ乃村 笑
 せせ破し月もむしし北月あらん 言
 おい啗妹の衣し川し音 蕉
 ぬんまりし櫓北烟北白らけとれ 辰
 陣北夜ふに暮城他ふち也 信
 山文にうち降し降ふ雨北あし 風
 集切くくけふ人時鳥あけ 足

元さうり文城集ふあふし 言
 内燈うけふ神垣北 蕉
 梅

貞享四年十月

深川集

草庵にさくあり
 門人に其角嵐雪あり

南北寺に桃やしさくも草北餅 翁
 翁に馴し蝶鳥北 児
 嵐雪

野至浦北火繩毛巾多凡陽火に 具角

山北あまのこ鐘吹ゆあり 角

系下に月毛北駒乃少り吹し 雪

風冷にき化く 角

傍車にあ樸北お力りさるる 角

帯ははるる人合北さるる 雪

痛言さく初瀬の流北南に大寒 角

豆まきに供養一宵る北車風 角

酒醒れ節にうわさく赤毛 雪

刺ややし世身ふき北の裏 角

負軍功者に引く帰る 角

再び苦悶、宵北明 雪

又之家く蚊帳一這入月也及 角

庵乃雑水取する棹席 角

一通り彼岸北元乃咲散りし 雪

日永に廻る嵯峨也古恭 角

あまのくに孫子取らせん弱法師 雪

病醫者交りに伽流立馬 霜

舷^{フナタ}波よくと返し 房 角

柵灯 尺せ馬所北入口 雪

か房鳴ふ若屋北亭主若也きこ 霜

字田北喧流もやむうしこ 雪

夏寒死國北孫六奴死をあし 角

生しあ死風る石葛(十あ馬 霜

半北子あうしにせう馬市北中 角

江湖披露北田舎六尺 雪

中あうし夜に入馬月北多羽強子 霜

川く流しと明日の行りし 雪

糊經に四子あ梭乃裏表 角

志せんし物中死男尺身 霜

一度の江戸奴死るる馬小高以 雪

馬子洗汲し神北乃前 霜

あつよゆし未來切植し元北陽
三人笑ふ北日之し
雪 角

元禄元年三月

深川夜遊

青くとも少りふきあはれ庵辛子 芭蕉
提し室より秋北新 鎌 酒堂

あはれふ北窓故
あつよゆし

時介以附とん 概北二川の片寄し 嵐蘭

馬に歴し北 坊主臥北先に立る 袋水

先にもあつ坊の松 松山北橋の降し北 嘆起後り 堂

先にもあつ坊の松 松山北橋の降し北 嘆起後り 堂

先にもあつ坊の松 松山北橋の降し北 嘆起後り 堂

先にもあつ坊の松 松山北橋の降し北 嘆起後り 堂

先にもあつ坊の松 松山北橋の降し北 嘆起後り 堂

油のこころや
髪踏くあはれ
出ししあつ心
かこしこする体
あり

寒徹トウ山萑ハナ筆ヒツ 中ナカ之ノリ

正氣散テイキサン 心ココロ風カゼ 其ソノ輕カサ さよ

目メ之ノ多タ 先マ千チ石シノ仕シ也ヤリシ

きゆふに 澁シズカあさゆふ

踏フミ送ソウふ落オチ元ゲン 之ノ空カラ 其ソノ如ニ月ツキ 其ソノ如ニ月ツキ

那智ナチ乃ノ清スミ山ヤマ 其ソノ考カウ 送ソウ起キ空カラ

弓ユミ始ハジ寸スン 其ソノ多タ 其ソノ息イキ子コ 其ソノ也ヤ 其ソノ也ヤ

荷カ取トル 其ソノ鳥トリ 其ソノ去ク 其ソノ海ウミ 一イツ飛トビ 以ヨリ 以ヨリ

町中チヨウチュウ 其ソノ鳥トリ 居イノ赤アカ 其ソノきキ 其ソノもモ 其ソノ也ヤ 其ソノ也ヤ

吹毛フキモウ 志シ 其ソノ野ノ 介ケ 其ソノ報ホウ 其ソノ也ヤ

葦アシ 足タラシ 袋フクロ 其ソノ地チ 空カラ 踏フミ 其ソノ足タラシ 秋アキ 其ソノ矣ヤ

伏フス 又マタ 其ソノ也ヤ 其ソノ古コ 其ソノ屋ヤ 其ソノ也ヤ 其ソノ也ヤ

玉タマ 水ミヅ 其ソノ也ヤ 苗スエ 其ソノ也ヤ 其ソノ也ヤ 其ソノ也ヤ

赤アカ 其ソノ也ヤ 其ソノ也ヤ 其ソノ也ヤ 其ソノ也ヤ 其ソノ也ヤ

山ヤマ 伏フス 切キレ 其ソノ也ヤ 其ソノ也ヤ 其ソノ也ヤ 其ソノ也ヤ

鎧ヤイ 其ソノ也ヤ 其ソノ也ヤ 其ソノ也ヤ 其ソノ也ヤ 其ソノ也ヤ

蘭 水 堂 蕉 水 蘭 蕉 堂

蘭 水 堂 蕉 水 蘭 蕉 堂

竹合の皆上戸とて飲ありし 蘭

きくまくと 瓦隙あり 水

素おし和尚の礼に歩ありし 堂

立込しありし道也 大日 蕉

撥揚し水田も昔馬、人北声 水

道うまに 難提以く 蘭

不臥立り地難府家也古綿市 蕉

ご殿把之込む土間也典実 堂

亦五井人の号く 元又せん 蘭

維子北は汝く にかりふ恙竹 水

二月一日 宗鑑の客煎茶一斗亦五井下戸の
亭主也仕合成馬

洗足にあし名也付く寒さ哉 酒堂

綿^{タテ}宿^{タテ}並く 姑冬むむ也里 許六

鶴鷲踏子也益切付し 來あり 芭蕉

才乃の七種毛也 七種毛也 蘭

長月也色冰毛残る小齋賣

築地長閑に典藥也加籠

お國寺ちん乃飛乃盛りに

椀乃蓋也これ中た作也

西元也差黨は多く草まゝら

むくく吐くに野良位すも

きぬくの宵也踊也蒲吹着し

ひくく追奉也月を燈きる

六 堂 蕉 蘭 六 堂 蕉 蘭

青路鳥乃椽に荷んや路也音

二人也柱杖跡先に付く

素魚也挑灯也免ん船ありし

ひきくく馬星合也し

村の飛田面乃草也青もくち

塚也蕨也茂る石原

葎僧也師に廻り今も其也未

今く破る今川也水

六 堂 蕉 蘭 六 堂 蕉 蘭

川上長く後撰切風致詠
まゝと招局、四國席、此
於露にほほ、之を藍、此
よき、物に之れ、麦、此
馬士取待、高、丸、井、戸、此、端
目、表、に、髪、切、流、水、此、中
灯、と、毛、く、し、石、あ、之、ふ、子、何、違
先、積、之、ふ、く、此、物、成

六 蘭 堂 蕉 六 堂 蕉 蘭

川上中し、乃、此、瓦、に、立、ふ、し
高、親、音、に、幸、山、寺、以、之、馬
今、時、は、ふ、子、羽、織、成、音、此、此、
茶、此、丸、結、に、誰、も、隠、ふ、
菟、垣、に、古、巻、之、中、馬、 堀、乃、 内
日、の、赤、く、こ、ふ、二、月、 朔、日
初、元、に、伊、勢、此、蛇、乃、之、此、地、之、
沟、棹、善、也、く、宮、川、此、上

六 蘭 堂 蕉 六 堂 蕉 蘭

元禄元年十月三日

雪丸集

陽火の光をう眉にさし 孤子に

芭蕉

水初々たるに走りしおも

曾良

杜の家は獨活也初おあつし

谷山

才のうりて先に穢れ穢れ

北節

十六夜毛同じ名所に帰りに

良

ふれ隠れお賣り乃秋

蕉

萩系乃露に泣し毛面白

竹節

ふとし振拂子佐北松

山

五月追少袖也綿も脱あ

蕉

落しこれ髪奴解掛

良

恋らし恋ふ人毛抑ね

山

細く書くこれ多北や

節

盃成れらるるに巨燧

良

年若り一人は待たせしむる 蕉

お音成其のあけをえ 吹にりふ 嵐蘭

桐葉よりそ陰も家 山

旅車ぬれ東の月やし 元 良

水の底も富七城 郵に 蘭

あつひし汐好^下あうう^下あいの鱈 蕉

大に追馬、あち北むる鳥 良

城少北初空晴多、篋脱し 山

起し火城鐘^打はき。 素 蕉

水之玉送子ぬる星月 萩 蘭

組しあうせの席驚し之り 山

山風にきひしく落る栗北房 良

雲木あすふふ谷陰も家 比 覬

誰の妹とし方城や何せんお思ひ 蕉

あう那、百合に泪うけけ 蘭

根乃番しし明日夏也 月 嵐竹

三ツセ岩屋に佛似りし
 淳名まゝ詠訪也温泉北に上り
 かい先侘々局貞乃亦物
 何故に人如従者也し方城さけし
 簪に居れり籟乃濱燒
 一門セ元尺衣セき備くく
 竹りふ後也竹節長果あり

山 蕉 良 蘭 山 薨 竹

大禄二年二月 於塔山旅店真行

風流如きく免也奥乃田植くく
 いちこ紙折し赤の梅くけ竹
 水せきし昼寐也夕や虫の渡
 籬ビシクにアヒカ對乃 声いづれあり
 一葉くし月に昼あき川柳
 日雇至根ふく村に秋成
 賤かの上総念佛に余城汲し
 世如く也やし涼む友毛乃

芭蕉 篁躬 曾良 蕉 躬 良 躬 蕉 躬

宵時の蟬は毛声乃入物々

梓木小枝に高城をよそ

いゝ夏しの端、富木名毛に

空降山や白髪面影

酒盛りの軍装送る國に

秋城知る方よし物よし僧

更夜に碧突破る床に角

嵩木清伽木位はりる月

色く北新城飛に筆 居し

うきうき骨城にわく糸

山鳥北巢の奥遠や踏く

芥姫斗清水に花を

新曳く雪車一節北跡ありし

各ふ北冬籠る宿

七のやうに奴物火高北世にあ

宮に宛さけし浮名を

良

蕉

躬

良

蕉

躬

良

蕉

躬

良

蕉

躬

良

蕉

躬

良

宵時の蟬は毛声乃入物々

梓木小枝に高城をよそ

いゝ夏しの端、富木名毛に

空降山や白髪面影

酒盛りの軍装送る國に

秋城知る方よし物よし僧

更夜に碧突破る床に角

嵩木清伽木位はりる月

色く北新城飛に筆 居し

うきうき骨城にわく糸

山鳥北巢の奥遠や踏く

芥姫斗清水に花を

新曳く雪車一節北跡ありし

各ふ北冬籠る宿

七のやうに奴物火高北世にあ

宮に宛さけし浮名を

良

蕉

躬

良

蕉

躬

良

蕉

躬

良

蕉

躬

良

蕉

躬

良

手枕に細丸拵成さし入也
蕉

何や々夏也是々及七夕
躬

住之丸宿也相乃月成 見よ
良

す丸着々む 六条也髪
蕉

切檜枝々馬々々丸 櫻 孤
躬

太山流く之北声仁時雨
良

淋々也湯也老寒々感も終に
蕉

殺生石也下走ふ 水
躬

元遠丸馬に地也城道守 きし
良

酒也迷以乃 是も才号風
蕉

方才也後了地人也正月も何
躬

蚤飼すふ家上小油主也
良

右者真品岩瀬郡相樂伊左衛門宅而真行

五月雨也集し涼し 宮上川
芭蕉

岸に虫也流あく 舟 杭 一 榮

瓜島いさよふ空に月待之巾 曾良

星城定に畑乃 細道 川水

牛也子に心磨む 夕向之れ 榮

勇気〜主〜 懐乃 吟 蕉

侘竹或柳に當し 山お路〜 水

松結ひ玄く 國七境之目 良

永樂七古死地願哉 戴し 蕉

羨中し合せふ 大寧之孤 榮

たきおれ 名我あつりきやしうもろふ 良

瓜取粉る川ふ 刃古也石 川

卷上ふすれに兒七 這入し 榮

又らふ人に告ふ 秋 風 蕉

水聲ふ井手也 月丁也 表あれ 水

砧しし 迎 櫻し 出さふ、 良

元也後 花也 織すふ 花也 花 榮

福もくい 中もむ 山陰也 塔 水

穢多村の浮世は外は春富し

刀持ちすは甲斐北一亂

洋垣人共通る女 閑所

物書く度に削る松北木

星奈ふ好友の白毛北枯る迄

集り捨ぬる名残留る月

床笛に世もさもかゝし墮足結

柴賣りに出しか路忘る

蕉

良

水

榮

良

蕉

榮

水

祢ふと嘆く本陰地昼はけ落ひに

絶くあゝれ万日共鐘

古今は友の中し跡地ありと一星

言葉端する船乃意合

空を舟に師走北市乃名残とくし

燦掃は日地中庵乃女

生死人地古丸懐紙に筆一らに

鰥鳥北送る入 お

蕉

良

水

榮

良

蕉

榮

水

比良堤あり毛越つ兒 峯七 花 蕉
山田七種切 祐ふむさ免 良

元禄二年二月大石田高野平左衛門宅真行
誹名一榮最上川邊山形町上言所十リ

片歌に承り若七ま〜 破生 蚊 帳 風 流
ま〜免し 香ふ 風七 薰 芭蕉

菊作り 歎に 薄切 折 流〜 孤 松
旁立〜〜ん 軒七 之 未 曾 良
〜〜成ふ 月に 二星〜〜し 耕 風
鳥 市 著 凡し 駒 定 執 筆
焼 け〜れ 又〜 弓 矢 切 取 流〜 蕉
免 試し 刺 切 定 む 流
梅 之 凡 幸 毛 也〜 凡 序 瓶 子 良
す〜れ 切 柳し 通 凡 流〜 加 栞

三夜見ふ爰に古今此思ふれし 木端

浪乃音すく寫北墓原 風

空降らぬ已れし 右りり馬 榊

萩西之爰馬楯乃流す 蕉

行るる月夜燈也く流す 松

疾流ん中し露くくあり 端

散る花乃今の衣袂存 蕉

即冬沙る度前也 石 良

樂く中し茶碗扱せられ其水 流

果多兒意に長兒月代 端

油香短り起りの畔に立流し 風

牡丹也下風お北より 榊

老僧乃のし小盃始ん 蕉

武士より入東西也乃 良

已流るる麻毛鳴多し 奥野 流

羽織に色む草柄乃月 端

秋更し捨子に借人菱乃 笠 耕
 うさ山海せり 夏濃く谷汲
 系放たうし 夜那ふ 夕向ふ人
 出城北裾に又ゆふ 篝 火
 奉ふ 借清北 看も 跡 上 し
 よう 仍し 寒く 祀 祐 宜 其 白 張
 堀く 一 石 其 唐 壘 其 之 居 凡 多
 知く され 山 毛 雨 其 後 竹 々

耕 蕉 風 流 蕉 端 風 流 蕉 端 風 流 蕉 端

咲くふ花 城 左 仁 袖 交 し
 鶯うさ 以 小 蝶 意 不 荷
 良 端

大禄二年夏六月出羽新庄風流亭真行

水乃奥氷室 尋凡 柿 可 南
 直 昼 之 折 橋 乃 伏 芝
 風 流 的 其 夏 先 仁 旭 唱 以 以
 芭 蕉 風 流 曾 良

風北香毛南に近し一崱上川 芭蕉

小ぶら軒取洗ふ夕立 耕風

抑毛多く櫛櫛の旁に埋れし 木端

あしき也空取薫る風共音 芭蕉

住もむ人北結ふ夏 露丸

川船北碇に坐取引立し 曾良

於北花あやに又ゆふ三月 釣雪

澄水北天取澄一鳥 秋乃風 珠妙

山毛南毛砧うちり 梨水

居眠し昼取熱地に笠取し 雪

百里北旅取本曾北牛道以 蕉

山尺心に城北紀取書人 丸

芥持すむ神本北木以 良

歌詠北跡きよし 雪

豆くく奴夜何やし泣く鬼 丸

古御所取寺にあし馬袴皮葎月 蕉

糸に立枝の様く 其萩

月見よやし引起き作し配し丸

髪あふらする ウズメ 羅 其片少

満流のあゝ丸せうさゝくに花折し

的切其す巻に 笑奴山吹

其絨強くセツ其くお力石

汲し戴く醒井其水

足引、其すあゝ手迄毛捻 蓑

良水 蕉丸 雪丸 蕉丸 入

畝乃乃に二夜寐にりり

ら地沙る爰の地中、其地藏にし

素乞すあゝ 山太其声

薄と空の椽乃枯葉其上寒く

河北島に是く保旭さひく丸

籠也音也持宿に先切利し

鈴魚とあゝる 夜終其法

月其山嵐其風其骨に 志む

良入 雪丸 水蕉丸 良

粟稗、或曰每北并の喰以飽し

予北ち〜〜切折ふ貞北戸

赤橙切母北記念に植わす北

荏に残れ小田乃茆 初

北秋毛乃北橋板出せり

救免に毛乃し獨又馬月

手取〜の地震毛ある〜寺北隆

菟北也北妬記毛北うけ

暫入北花又馬島に赤むれし

本北廓の畑に焼り

全銀北基毛歩に改王

奈良北都に豆腐始ふ

北空に先ある〜生中も全柳し

痛巻ある〜北化粧以負し

遙りきの眼取泣撞れ築は茶舟

交く〜に友取〜せし

蕉

行

良

凡

行

蕉

丸

良

行

丸

蕉

行

良

蕉

丸

良

千日水庵我 踏ふ小松も
 蛭牛北売城 踏はる音
 才の蛭北穴持也 羨也是す人
 三ヶし露り死如良元花
 明を川ふ月致飛御如空に足
 温泉水うりあふ陸奥北秋
 初一北比り思ふ氷北も免
 山穀は之ふ言北物死之
 行 蕉 丸 良 行 蕉 丸 行

尼衣冑にまきふ心 一し
 行 通ふつきくははき橋
 元北時鳴く也やうふ叫子鳥
 籠に日空く一葉北山産
 良 蕉 丸 行
 元禄二年六月羽黒ヨリ鶴力岡ニ至リ童行亭
 ニテ真行發夕の羽黒山七日冬笠電ノ吟也
 涼しきや海に入らぬ最上川 芭蕉
 月夜ゆりる浪北浮海松 令道

黒鴨也飛行一庵也窓のし 不玉

井席の雨にあゝんぞきん 定連

梳ゆしち折友偲りし市城待 曾良

影にもろすふ宵也油火 任殿

不棧囁也心に重衣 高衣 扇風

右野加那須野高久角左衛門ニ換ル陸奥一見ノ桑門
同行貳人那須篠原ヲ尋テ櫛殺生石ヲ見ニト越ケル
程ニ雨降ケシハ先所ニ留リテ

落才也馬也たゝく也器也時多 芭蕉

本向成詠く短夜也雨 曾良

桑乃可伸ノ主ニハ栗木下ニ庵ヲ結ヘル

隠家也目に去る奴氣也斬也栗 芭蕉

稀にほろもれもる露也 栗梁

抱尽ん山也井也水也少也人し 等躬

畔にさひすふ石乃柳橋 曾良

右等雲深竿素蘭七吟歌仙未略芭蕉翁
陸奥ニ下ラニトシテ我カ茅屋ヲ音信テ 猶

白川ノアヲ夕須賀川ト云所ニ留リ侍ルト
聞テ申遺^{ツギ}ニケル

雨晴し雲飛^レ 嗟く跡又可南

桃雪

何れ北^ノ草^ノに^レ鳴^ル落^ル 蟬

等躬

夕食^ハ喰^ハ不^レ残^ル 外面に月出^シ

芭蕉

秋^ノ草^ニに^クり^ヤ 秋^ト云^ハ思^ハふ

曾良

別會

旅衣子苗に包む食乞人

曾良

渡り堤 葛蒲折らす

芭蕉

夏^ノ引^レれ^ハ牛^ノ引^レれ^ハ青^ノ草^ノ 疎^ク之^シ

等躬

別會

菝^ヤや^ハ切^マと^ハ切^マ以^テり^テ 山^ノ草

等躬

市^ノ北^ノ子^ノ供^ノ北^ノ暮^ノに^テ 投^ル布

曾良

日^ノ而^テに^テ 笠^ノ並^ニ 妙^ノ涼^シ

芭蕉

羽黒ヨリ翁ヲ送ルトテ

高^クよ^ク 虹^ノに^テ 蟬^ノ鳴^ク 山^ノに^テ 空^ノ

會覺

秋北去け之切返り三日月 芭蕉
残竹以子束乃之切之庭之 不玉
沙上残之馬北足跡 曾良

細川青庵宅ニテ

芋園に何れ北死北叶ま之 芭蕉
萩北葉切之け不月 棟芝
夕煙北夕多之切秋乃いふせ之 東也
馬多し奴けし高敷北下 曾良

蘭竹亭

空一高八益上桃北死書也 西堂
孫上寒之兒琵琶北本機 素堂
霄七月とく之情ふ人に若し 芭蕉
満福起合ふ人切枝折北復也哉 芭蕉
青北復盆子切之推七葉 翠桃
村雨に市北夜亦切吹也し 曾良
町中切切川音北月 蕉

箬竹の葉手に握る夕涼

秋草画くよしの誰れ

物言つ扇に鳥の鳴き声

庭に髪を洗ふおんな

朔日に方城の石を家もろし

盗人三つ犯す女

松の根に笈切並べし年取らむ

空橙分し連歌をいふ

柳

良

蕉

更輪

良

柳

蕉

柳

名所一々笑し北小野、炭俵

碓打馬、尼達女、家

あ七月も高しに地無し花

露中も消へぬ物に死に

錦繡北時先く死に憎むし

己の羽にまよふ蝶北草

子傘さん子仇誘ふし其は庭

衣取捨し煙死世北中

輪

良

柳

蕉

良

柳

輪

桃里

酒飲の谷也杵本毛佛あり

杵人之鳥岫也松の

落武者也翌々也道同草枕

千木カッチスソ本同

右枯也透字に千木也片を地

日中も撞撞比にありにり梨

一合も茶毛うすり流ぬ

乞食も知しし浮世も物語

洞也地藏に筆電も有る

蕉

良

柳

輪

里

衣

輪

桃

草も葉の根也洞也深遠らん

流人茶茹ふ秋も風音

今も毛も旭也あむる也止

草も磨ちる籠也白浪

旗也子也空もやもししひるり

奥も風雅也物に書目付く

珍らしき水肺切取に留まし

強生も蓋も其れ海也

蕉

里

蕉

二寸

良

輪

秋鴉

里

元禄二年六月奈須余瀬翠桃ヲ尋テ
真行ノ巻ニ

尾張土歌仙 土芳聞書ニ曰

杜句

册古言也又
トハシルトハシ
タハシルタハテ
同夏にしたむれ
ふ〜ソノ夏あり
發句何ぞや〜この
上らにゆ〜の御成
ち〜〜し〜
發句て留成る故テ三
以讀字にし留る又

木枯也乃の竹之甲に似る可菊 芭蕉
ももや〜〜ふ笠北山茶元 野水
家月也 鶴也 行々 ありし居し 荷今
夕々 朝日乃あ〜ん〜り 芭蕉

チ取之又表乃
夕〜北言又夕〜
世〜〜
心〜〜是取む〜
チ表也〜
は巻册〜四々目之
夕〜
常世巻にのけ夕
目代〜〜ニ〜
册以多〜

榎槽。山家也 柳也。木葉 降 重五
山をすふ牛也。塩こちれは、 杜國
音もわは具足に月也 落くやし 羽笠
酌中 鳥童。葉切に いし 桠水

花摘集

おの〜や空見〜
位ち中し人共むすふ夏 叶 露丸

川舟其跡に雲引、立し
曾良

鶯其飛跡に月影三日
釣雪

澄水に天取らふ秋其昏
殊妙

水毛南もきぬとホリ
梨水

眠りし魚其陰りに笠ぬきし
釣雪

百里其旅成木曾其牛道
翁

山片之心に城其記成書
丸

斧持きくも神木其森
良

歌讀其跡ききひはぶあくし
雪

夏く夏其何やしあく鬼
丸

古所所成寺にあくくは松皮萱
翁

糸に立枝にきほく乃萩
水

月影やし引起きれし恥し其
良

髪あふれ其羅乃露
翁

ま川の湯大北きくし飛りし
丸

的場其末に咲ふ山ゆ其
雪

毒成強〜七ツ北年九カ石 霜

汲し〜〜醒、井、水 丸

足曳、セ、あ〜〜、迄、毛、以、移、り、表 圓入

敵、セ、門、に、二、折、落、に、り、り 良

う、如、沙、多、夏、ハ、世、中、に、地、花、に、し 丸

毒、乞、す、ふ、ら、山、丈、也、あ、ら、う 霜

〜、す、ま、の、椽、乃、枯、葉、也、上、寒、く 水

湯、也、香、に、是、を、ふ、旭、淋、く、丸 丸

籠、乃、音、成、竹、也、和、り、し、矢、成、を、死、し 雪

篠、^{スガ}ら、け、し、は、ふ、葉、す、〜、〜、也、法 入

月、山、也、嵐、乃、風、毛、骨、に、〜、む 良

飯、治、ら、火、也、三、り、電、乃、影 水

ち、ふ、ら、し、北、梧、上、又、竹、〜、心、太 丸

唱、子、也、中、〜、落、〜、片、敷、の、窓 雪

盗、人、に、行、ふ、子、妹、の、才、成、法、し 翁

祈、毛、尽、く、女、同、く、也、神 良

盃 其香上流凡多如也 會覺

幕 打如ふふ流川々 水

花勸進ノ中 岱水聞書

冬乃日炭賣初折一夕ニ花櫻有リ

飛に泣極乃 蘆カヒとすくにりふ 芭蕉

同名残ノ裏三夕目

粥すくは 膜花にのしこ 満玉 野水

朽衣北下に 澄み其 風 芭蕉

同 鶴也 夕く 北卷折

赤の月出よ 夕の 臍 有 杜園

旅衣 袖落 元 切 拂 以 羽笠

同名残裏二夕目ニ

伏尺 右幅 其 蓬花 取 夕 月 荷 兮

春日伊勢冬リノ卷脇櫻有リ依テ初折ノ
花ノウハサニミテ附リ

左々々散ふ中むまゝの連

重五

禊に古冑北帟考ある事

李凡

奈良ノ巻初折ニ發句八重櫻

月々禊浪にまゝ石お橋

羽笠

古流しとれ本也根に禊也點るん

野水

同名残裏折端ニテ花

甲戌持し禊刃馬里に生り

羽笠

蛙ノ巻月ヨリ花ニ移ル

外北月に淡あゝりせ

何兮

跡に禊四也宮々乃唐湍にし

且藁

曠野集

麦以忘化禊にあむん奴一ありし

素堂北發句ある巻初復北極地葉

千夕月あむ山乃寺

荷兮

地さ々一重左々々毛嘆孤星

越人

同齋字より七巻初裏九夕目花

何夏毛うちとるいよふ禊也

荷兮

月北緯也飛鳥井北君 冬文

同名残北裏四句月花

白刃上房子飛北旅立 松芳

同けしきん北卷初裏十句月北元

月北初雪はけよいそくらん 野水

飛喚りりやし心ま先あり 荷兮

月に柄北卷名残裏 飛に橋

百下毛相ひ西よ 飛乃才 傘下

田楽まきまきし左之良満く 越人

同越人西吟北初折月花

月中し元北良北高根切心にし 芭蕉

同名残北裏乃元 挨拶あり

飛北清美まきりもくやま 越人

田にけし噓あし腥き口 芭蕉

同其角越人西吟北卷初折秋北花

深色北富士北浅黄に秋乃巻 越人

元也きくく鳥草共一瓶 其角

同初雪也卷初裏廿月春也月

下戸の皆いづ月也穰氣 落梧

身也菌やもくも花也救あらん 野水

同名残裏四句月より三句はく春

誰より元也先一又し也馬 落梧

瓢集 亦也下の汁も餘も極也初裏

千部讀む花乃盛也一才田 珎碩

無句也初裏花に發句也今初を以時節也句
あしきり

同春也草也初裏十句目

元のあしよ月も腫 菰 路通

同名残也裏

元さうり又百人也膳くしに 荷兮

才の旅もも初もりさる 旅

同鉄炮也卷初裏月花

月元子店屋成上高し高しせ 珍碩

名残七巻 夏七巻

秋村如元の若葉に雨葉はき 怒誰

田如片隅に苗北よりさし 泥土

雜七巻 初裏 五句目

初元に雜七巻 檜居あし 珍碩

心七店に高れありしれ 里東

角大師七名残七裏 夏より春に移る

やしち七楓木芽前より 正秀

散る元に空踏 扱はる音あり 珍碩

小野く馬場に毛ゆる跡 秀

穢篋集 夏七月七巻 初裏 三句目

道人如おりの元七はあむ 時 去來

能登七七尾乃冬の位う死 化北

灰汁桶七巻 初裏 秋より移る花

長元に散る乃の西念う衣着し芭蕉

名残北裏

糸左之〜後一石に嘆に

りり

去來

乙卯餞別七卷初折

陸七柄上之す〜〜〜七之

去來

續棧叢八九間ノ卷初裏月花

宵明に如之湯〜七乃立あはし

芭蕉

又夏上梅小叔七生一口

沾圃

存引す以馬卷初表十月日少中

宵明高小所を居る〜

馬寛

紫赤七花水中〜五石つ〜出し

沾圃

霜七松露路七卷初裏秋〜〜〜

水際芝石濱七小 翳

惟然

又〜通ふ紀三井ノ花七咲〜り

芭蕉

名残裏

此あ〜り 弥生の花七けもあ〜し

惟笑

鴨ノ油乃〜とぬけぬ基

支考

炭俵野坡西吟初裏秋〜〜〜花に移る

空路城おるに居合ひ之聲 芭蕉

所亦北流らりや碎し花北陰 野坡

名残裏北元表十一句貝引上茶表月花也

法印北湯治城送ふ花左り 芭蕉

裏北花座陰陽和合也

隣へも多し世に城我連し十也 野坡

屏風北陰に忍びふ菓子盆芭蕉

岩雪利牛 野坡三吟北卷翁夕元あり依り

發夕

初裏月也十句目にあり三句目迄の秋之

名城季離心者肺と翁も感心しアきんる

葉好も庭穢りし 花さりし 嵐雪

季離

葉公北之局し死白に黒ありし

空豆北卷九句貝(花城引上十一句目城春北月とん

世に多しやら 花北都あり 利牛

百韻二ウ月花

月飛上り起あけ 城北跡をり 利牛

弦外風 幽室中 桐 孤屋

三ウノ九月目花七ウ目々ノ春ノ々

元乃内引越ノ居子 桎 系 利牛

其角孤屋西吟七卷初裏八ウ目々ノ
秋乃紀十ウ元紅葉

貫ノ七梅付桂七元 子 孤屋

幸山子七卷初裏秋々ノ移子花

人七物 負福乃樂子元 野坡

振賣七ノ七卷初裏月花

山 崑七 福鬼毛子 芭蕉

雪七松乃卷名残裏時節七ウ

飛乃雨 乃内ノ降出 桃隣

月 交子乃蓬乃後 愚ウ



